

ドイツ、ケルン・ボン空港事故の概要

1. 事故の経緯等

2004年3月4日、ドイツ、ケルン・ボン空港において、1歳8ヶ月の男子が自動回転ドアに頭部を挟まれ、頭蓋骨内部挫傷により死亡。

2. 製品情報

製造事業者： GROTHKARST & CO. GMBH

(1965年から自動ドアを供給しているが、事故が原因で既に倒産。)

製品の仕様： ツーウィングタイプの自動回転ドア。

設置時期： 2000年

認証： 同製品がどのような基準認証を受けていたかは不明

<これまでの事故等>

同自動回転ドアの設置以来、発生した事故は14件。2002年には1歳7ヶ月の女子が腕を挟まれ複雑骨折。

3. 事故原因

捜査当局が鑑定を依頼している TUV Rheinland が3月26日に鑑定書を提出し、結果として、「以下のような安全上の重大な欠陥があり、完全には安全基準に対応していなかった。」と発表した。

- 1) 非常スイッチの欠如
- 2) 赤外線(ボックス)に欠陥
- 3) ドア停止を促すセンサーが設置されていない
- 4) ドアの駆動力が強すぎたため、回転速度が許容範囲を超えていた
- 5) 外側のガラスとドア・ウィングの間隙の設定が大きすぎた。
- 6) ドアは逆方向には動かない
- 7) 停止までの距離が長すぎる

この鑑定により、過失致死の疑いでメーカーと検査を請け負った TUV Nord-Hannover が当局の捜索を受けることになった。

4. その他対応状況

5月4日、ケルン市労働保護局により、回転ドアに関する警告が発せられた。ケルン市および近郊の都市における回転ドアの、正しい取り扱いを伝える目的で、ビラ、ホットライン、注意書きを用意。検査官、施設所有者、企業に対し注意をよびかけたもの。